

2021/8/6

(うとQ世話し 現状のご報告) 書庫版



本日は76年前に広島に原爆が投下された日。

原爆ほどではありませんが、当店にとっては「それ並み」の破壊力を持つ事態がやってきました。

以下お話申し上げます。

「値上げの秋」というのは聞いたことがあるような気も致しますが「値上げの夏」というのは未だかつて耳にしたことがありませんでした。

しかし、今夏はその大波が押し寄せてきております。

話は少し振れますが、元々我が国は食糧自給率の極めて低い国です。大方の食材が海外からの輸入に頼っております。

就中当店の様に外国料理をお客様に提供して生計を立てている店の海外直材調達率は極めて高いものとなっております。

極端に申せば鮮度優先の葉物野菜とお米以外は全て外国からの調達と言っても過言ではありません。

他にはナンや肉の焼き物をするタンドリー釜に使う遠赤外線効果の高い備長炭も海外から調達しております。

ところが今回のコロナ禍でその海外からの供給網がズタズタになってしまったのです。

まず農場で働く人たちが集まらない。

それでもなんとか出荷できたとしても今度は港で船に荷を積む港湾労働者が集まらない、という流れで食材が我が国に入ってこなくなってしまったのです。

その為購入価格はうなぎ登りに上がり、現在では主要食材が軒並み30%から100%つまり

倍の価格アップとなっております。しかもそれが一回では済まずに二回、三回と短期間の間に波状絨毯爆撃のように繰り返されております。

最早当店の台所事情は、ぺんぺん草も生えないほどの焼土と化しております。

しかも、それを吸収するための価格値上げは我が国のお国柄、特にこの地域の特性としては極めて難しい訳です。

この状態を冒頭で、被爆者の方には誠に失礼ながら「原爆に模して」お話を切り出した次第。メディアのニュースでは工業製品に関するサプライチェーン寸断の話はよく報じられておりますが、工業製品以外にも農産物畜産物製品も同じ事が起きているのです。

特にこの夏はワクチンによるウィルス感染（実効再生産倍率）抑制効果が低いデルタ株の急激な拡大で、当店食材輸入先である東南アジア諸国の生産状況が惨憺たる事態となっているようで、収束又は終息の気配が全く見えておりません。

さてもさてさて、どうしたものか？

「一難去ってまた一難」

等と言いつつもう 99 難くらいはクリアしてきたのですが、是がこの先 100 難で終わるのか或いは 200 難、はたまた 1000 難くらいまで続くのか？

当店の食材在庫のみならず、亭主の自分の「気力体力在庫」も底をつきそうな状態になって参りました。

追記)

最後に一言

No More Hiroshima & No More Corona Virus Crisis.